

通し番号	4719
------	------

分類番号	26-32-16-01
------	-------------

‘湘南ゴールド’の果実を有孔の高密度ポリエチレンシートで包めば、常温貯蔵庫内で4月下旬まで貯蔵できる。	
[要約] 3月初旬に収穫した‘湘南ゴールド’の果実を、常温貯蔵庫内で、有孔の高密度ポリエチレンシート1枚で包み、貯蔵することで、4月下旬まで、果皮の鮮度が維持でき、へた枯れの発生も抑制され、外観品質が高い状態で維持される。	
神奈川県農業技術センター足柄地区事務所・研究課	連絡先 0465-29-0506

[背景・ねらい]

3月初旬に収穫期を迎える本県育成のカンキツオリジナル品種‘湘南ゴールド’は、今後とも生産量の増加が見込まれる。そこで、生産者が所有する常温貯蔵庫内でも、4月下旬まで、品質を保つことのできる貯蔵方法を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 3月初旬に収穫した‘湘南ゴールド’の果実を、約50cm²に1か所穴開けパンチで穴(直径6mm)を開けた厚さ0.02mmの高密度ポリエチレンシート1枚で包み、木製の貯蔵箱(70cm×38cm×12cm)に7分目程度で入れ、常温貯蔵庫内で貯蔵すると(図1、2)、減量歩合が低く、しなび果の発生が抑えられるため、果皮の鮮度が4月下旬まで維持される(表1)。
- また、この方法によれば、へた枯れ果の発生も低く抑えられる(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 無孔の高密度ポリエチレンシートでは、腐敗果の発生を助長するため、必ず、穴を開け通気を確保する。
- 穴開けパンチで穴を開ける際、高密度ポリエチレンシートを5cm幅に畳むと効率良くできる。
- 高密度ポリエチレンシートには、市販の70Lタイプの高密度ポリエチレン素材の袋を使用することも可。ただし、低密度ポリエチレン素材のものを使用すると、被覆資材内が結露し、果実に灰色かび病が発生するので、ポリエチレン袋の使用素材には注意する。
- 貯蔵する果実は、外観上、正常なものを用い、1箱あたりの果数はL級規格(湘南ゴールド規格)の果実で80果程度を目安にする。

[具体的データ]



図1 高密度ポリエチレンシート
を用いた貯蔵状況

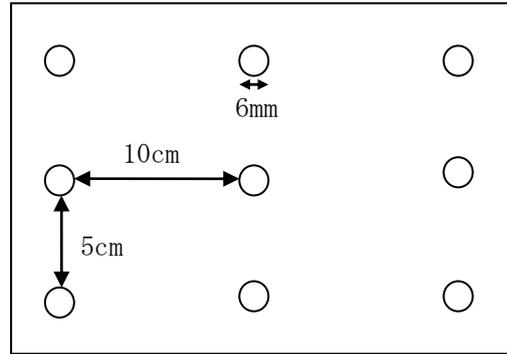


図2 高密度ポリエチレンシート
の穴の間隔と大きさ

表1 被覆資材の違いが減量歩合及びしなび果の発生に与える影響

試験区	減量歩合(%)		しなび果			
			発生率(%)		発生度 ^z	
	4/1	4/28	4/1	4/28	4/1	4/28
有孔高密度ポリ区	1.2c ^y	2.2c	0.0a	0.0b	0.0a	0.0a
新聞区 ^x	2.5b	5.4b	0.0a	5.0b	0.0a	2.5a
被覆なし区	3.8a	7.6a	0.0a	63.3a	0.0a	31.7a

z: しなびの発生程度を無(0)、軽(1)、甚(2)に指数化し、次式で算出した

$$(\text{しなび発生度}) = \Sigma (\text{発生程度別果数} \times \text{指数}) \times 100 / (\text{調査果数} \times 2)$$

y: 同一列の異なる文字間には、減量歩合及びしなび果発生率では Tukey、しなび果発生度では Steel-Dwass の多重検定により、1%水準で有意差がある

x: 新聞区は、新聞紙2枚を用いて、果実全体を包んだ

表2 被覆資材の違いがへた枯れ果及びへた落ち果の発生に与える影響

試験区	へた枯れ果				へた落ち果発生率	
	発生率(%)		発生度 ^z		(%)	
	4/1	4/28	4/1	4/28	4/1	4/28
有孔高密度ポリ区	0.0	6.7	0.0	3.3	0.0	0.0
新聞区	3.3	15.0	1.1	5.6	0.0	0.0
被覆なし区	1.7	26.7	0.6	13.3	0.0	0.0

z: へた枯れの発生程度を無(0)、軽(1)、中(2)、甚(3)に指数化し、次式で算出した

$$(\text{へた枯れ発生度}) = \Sigma (\text{発生程度別果数} \times \text{指数}) \times 100 / (\text{調査果数} \times 3)$$

- [資料名] 平成26年度試験研究成績書
- [研究課題名] 湘南ゴールドの生産拡大・流通技術の開発
被覆資材の違いによる貯蔵性の検討
- [研究期間] 平成22～26年度
- [研究者担当名] 川嶋幸喜、青木隆、二村友彬、斎藤寧
- [協力・分担関係]